琉球大学学術リポジトリ

親密なパートナーからの暴力を受けた女性患者に対する臨床看護職者の認識尺度開発

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): clinical nurses, factor analysis, female patients, intimate partner violence, recognition scale 作成者: 井上, 松代, Inoue, Matsuyo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36688

（様式第５－２号）

平成 28 年 2 月 1 日

琉球大学大学院
保健学研究科後期課程委員会　殿

論文審査委員
主査　氏　名　　高倉実　　印
副査　氏　名　　大嶺ふじ子　　印
副査　氏　名　　田中康春　　印

学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申　請　者	専攻名　保健学　　氏名　井上松代　　学籍番号			
指導教員名	宇座美代子			
成績評価	学位論文　(合格)　不合格		最終試験　(合格)　不合格	
論文題目	Development of a clinical nurses recognition scale for female intimate partner violence patients			

審査要旨

本論文の目的は、親密なパートナーからの暴力（Intimate Partner Violence、 以下 IPV とする）被害女性患者に対する臨床看護職者の認識尺度（Recognition Scale for Female Intimate Partner Violence Patients、以下 RS-FIPVP とする）を開発し、その尺度の妥当性と信頼性を検討することである。この認識尺度は、臨床看護職者の認識レベルの測定と認識の構造を明らかにするものである。

本論文で使用された研究方法は質問紙法による横断的観察研究である。沖縄県内の病院（7 施設）の臨床看護職者（n = 2570）を対象に、無記名自記式質問調査を実施した。1855 名から有効回答が得られ、これらの者を解析対象とした。統計的解析には、項目分析を経て、探索的因子分析と確認的因子分析を行い、構成概念妥当性（因子的妥当性）と信頼性（内的整合性）の確認をした。

オブリミン法による探索的因子分析の結果として、IPV 被害女性患者についての臨床看護職者の

認識について 4 因子 20 項目が抽出された。抽出された因子は、「被害者の状況把握」、「気づきにくい暴力」、「患者の特徴」、「支援と連携」と解釈された。4 因子の累積寄与率は 50.0%であった。各因子は互いに中程度の相関（0.27 – 0.47, P < 0.01）を示した。確認的因子分析によって、尺度の適合性が示された。これらの結果から、RS-FIPVP の構成概念妥当性が確認された。クロンバックα係数は、全体では 0.83、4 因子（第 1、第 2、第 3 および第 4 因子）では、それぞれ 0.71、0.73、0.74 および 0.71 であり、適度な内的整合性を示したことから、RS-FIPVP の信頼性が確認された。

本論文により、IPV 被害女性患者に対する臨床看護職者の認識の測定と評価のための RS-FIPVP を開発できた。RS-FIPVP は、看護継続教育の中で、IPV 被害女性患者に対する看護職の認識を高めることや、教育的介入での認識の測定と介入効果の評価に役立つ可能性が示唆された。本論文により、RS-FIPVP の信頼性および妥当性が確認されたが、さらに、認識尺度の安定性や基準関連妥当性の検証を経ることによって、今後、本尺度の臨床現場における活用が期待できる。

本論文は、親密なパートナーからの暴力を受けた女性患者に対する臨床看護職者の認識尺度を新たに開発して、その精神測定学的特性を確認していることから、新規性が認められる。さらに、開発した認識尺度の看護継続教育における使用可能性を示唆していることから、当該分野における貢献度も高いと思われる。また、申請者は審査会における質疑に対して十分に応えており、最終試験においても博士としての保健学に関する素養を有していることが確認された。

以上のことより、本審査会では井上松代氏の学位論文および最終試験を合格とする。